

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	社会的養護Ⅱ [Social Nursing Ⅱ]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750167	授業形態	演習	単位数	1	配当学年	3年次
教員氏名	若宮 邦彦			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP3(1) DP3(2) DP3(3) DP3(4)		
授業概要	<p>本授業の目的は、児童福祉施設(保育所を除く)を利用する児童の日常生活や職員の支援の実態を理解し、「児童の最善の利益」(クライアント福利)を保障・実現するために必要な知識・技術を習得することです。【態度・志向性の育成】現代社会における社会的養護問題の発生要因を理解し、家庭における養護に欠ける児童や特別な配慮を有する児童の実態、また地域における児童・家族問題を把握し、養護の専門的な知識と技術を講義します。要 保護児童対策地域連絡協議会において多問題家族に対するファミリーソーシャルワーク、多機関との連携によるケアマネジメント実践に携わっていた際の内容も授業に取り入れます。</p>						
関連する科目	社会福祉、社会的養護、子ども家庭福祉の履修が望ましい。履修後は保育実習事前指導を履修が望ましい。						
授業の進め方と方法	<p>アクティブラーニング型授業を展開します。社会的養護の臨床実践における具体的な支援内容について講義します【知識・理論の修得】。授業の前半では社会的養護実践の学術的な根拠(ソーシャルワーク実践等)を講義します【知識・理解の獲得】。後半ではドキュメントDVD鑑賞やグループディスカッションを通じて前半の学びを深め、自らの考えをレポートやプレゼンテーション等で表現します【汎用的技能の育成】。さらに社会的養護に尽力する専門職の実践を学びます。また、事例検討のワークショップで専門性の向上へとつなげていきます。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 社会的養護の基本的理解 (1)子どもの最善の利益 (2)生存と発達保障 (3)アドボカシー 児童福祉と社会的養護の関連を整理し権利擁護の視座に立脚した社会的養護の基本視点を学びます。 養護問題の背景と捉え方 養護問題の変遷 施設養護の現状 社会的養護の背景と社会情勢、児童福祉施策の変遷と諸相、社会的養護下にいる子どもたちの今日的なニーズと課題についてDVD鑑賞とワークショップにて考察します。 施設養護援助実践の基本。 レジデンシャルソーシャルワークの実践事例を参考に、具体的な展開内容を学びます。 施設における子どもの理解。 施設養護における具体的援助内容。 テキストの事例検討ならびにドキュメントDVDを鑑賞し、施設保育士の実践の概要、専門性を学びます。 アドミッションケアの意義と援助内容 インケアの実際と援助内容 リービングケア、アフターケアの現状と課題 テキストの事例やDVD鑑賞で児童相談所、乳児院、児童養護施設を中心に入所から退所時、退所後の支援のあり方、それにかかわる専門職の概要を学びます。 自己実現と自立支援、家族支援、親子関係を調整するための援助。 ファミリーソーシャルワークの理念、具体的展開方法、その専門性や課題について学びます。 処遇困難児への対応(1) 児童虐待 処遇困難児への対応(2) 愛着障害、発達障害 現場実践のドキュメント映像、テキストの事例検討(グループワーク)を通じ社会的養護実践の具体的な内容を学びます。 よりよい処遇をするための連携のあり方(1)ケアマネジメント理論 (2)コミュニティケア理論。 施設における実践をメゾレベルにおけるコミュニティソーシャルワークの関連付けながら多職種・関係機関との連携の意義を学びます。 社会福祉専門職に求められるもの (1)倫理・基本姿勢 (2)専門性。 命にかかわるドキュメントDVDを鑑賞しグループワークを通じ人の生命、生活に関わる対人援助専門職としてのミッションを再考する。 						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童福祉施設で生活している社会的養護を必要としている子どもへの基本的養護支援内容と方法を学び、専門性を高める。【姿勢・志向性の育成】 「社会的養護」の理論とスキルを同時に学ぶ。事例検討を取り入れ、ディスカッションやロールプレイ機会を通じ、学生自らが考える力を培う。【職業知識・技能の育成】 						
授業時間外の学修	<ol style="list-style-type: none"> 授業中に配布する資料、提示するテキストで予習・復習の箇所を提示します。 施設実習の現場として、各種児童福祉施設の概要や機能について理解するために、毎回の講義前後 30分程度の予習・復習を必須とします。 						
課題に対するフィードバック	レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をします。	評価方法		以下の項目に基づいて評価します。 1)学習意欲(授業中)－50点 2)小テスト及びレポート－20点 3)最終試験－30点			
テキスト	1.『保育と社会的養護』井村圭壯・相澤譲治編 学文社 その他、適宜プリントを配布する。						
参考書	1.『児童家庭福祉分析論』井村圭壯・相澤譲治編 勁草書房						
備考							